

第6学年 道徳科学習指導案

令和2年9月10日(木) 5校時

授業者

共同研究者

1 主題名 「生命の尊重」 内容項目 【D—(19) 生命の尊さ】

2 教材名 「命の重さはみな同じ」(出典:東京書籍「新しい道徳」)

3 主題のねらい

人間や動物の生きることの尊さを知ることから、自他の生命を尊重しようとする心情を育てる。

4 学習指導要領の内容を押さえた道徳的価値

学習指導要領には、内容項目【D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること】の【19 生命の尊さ】について学年段階ごとに次のように示されている。

第1学年及び 第2学年	第3学年及び 第4学年	第5学年及び 第6学年	中学校
生きることのすばらしさを知り、生命を大切にすること。	生命の尊さを知り、生命あるものを大切にすること。	生命が多く、生命のつながりの中をかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重すること。	生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること。

生命ある全てのものをかけがえのないものとして尊重し、大切にすることに関する内容項目である。

この内容項目は、主として人間の生命の尊さについて考えを深めることが中心になるが、生きているもの全ての生命の尊さも大切に考えなければならない。生命の尊さを概念的な言葉での理解とともに、自己との関わりで、生きることのすばらしさや生命の尊さを考え、自覚を深められるように指導することが求められる。

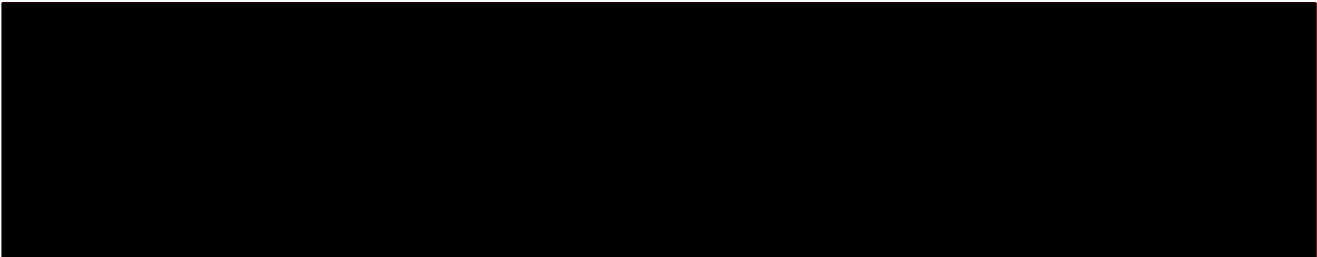
高学年の段階においては、個々の生命が互いを尊重し、つながりの中にあるすばらしさを考え、生命のかけがえのなさについて理解を深めるとともに、生死や生き方に関わる生命の尊厳など、生命に対する畏敬の念を育てることが大切である。また、様々な人々の精神的なつながりや支え合いの中で一人一人の生命が生まれ存在すること、生命が宿る神秘、祖先から祖父母、父母、そして自分、さらに自分から子供、孫へと受け継がれていく生命のつながりをより深く理解できるようになる。

指導に当たっては、家族や仲間とのつながりの中で共に生きることのすばらしさ、生命の誕生から死に至るまでの過程、人間の誕生の喜びや死の重さ、限りある生命を懸命に生きることの尊さ、生きることの意義を追い求める高尚さ、生命を救い守り抜こうとする人間の姿の尊さなど、様々な側面から生命のかけがえのなさを自覚し生命を尊重する心情や態度を育むことができるようにすることが求められる。

5 道徳的価値に関するこれまでの指導の成果と課題を踏まえた児童観

本学級の児童は、明るく友達に対して優しく声をかけたり、男女仲良く協力して活動したりといった様子が見られる。これまでに避難訓練や平和学習など命について考える場面があり、その度に命に関する話し合いを行ってきた。これまでの学習から、命が大切なものであることや、多くの人の支えによって自分という存在があることにも気づいている。一方では、戦闘ゲームなどバーチャルな世界に身を置くことが多いためか、生命を軽視する発言が多く見られたり、その気はなくても生命を軽視するような言葉を軽々しく言葉にしてしまう児童も見られたりする。

そこで、本学級の児童の実態を把握するために、事前の意識調査を行った。



結果を考察すると、ほとんどの児童が、自分の生命や家族や友達の生命は大切だと考えている。このことから、自分をはじめ、身近な人や普段接している人についての生命への意識は高いと思われる。また、自分とは関わりのない人や自分とは関係のない人、動植物の生命についても、大切だと感じている児童も多いことがわかった。以上のことから、知識としては「生命は大切である」ことはわかってはいるけれど、実際、学校での子どもたちの様子を見ると、友達に対する言葉遣いや小さな生き物に対する言動から、生命を大切にしようとしているまでには至っていないように見受けられる。そこで、今回の学習を通して、自分や身近な人の生命だけでなく、他の人や生き物の生命も尊いものであることを感じ取らせ、生命尊重の意識が高まるようにしたい。

6 道徳的価値や児童観に基づいた教材観及び指導観

本教材は、動物保護施設に捨てられた犬（ラブ）の命を、必死に救おうとした主人公と獣医、そしてラブの姿に感動した人々とのやり取りを通して、どの命も重さは同じで、かけがえのないものであることを実感的に捉えると共に、命を守り抜こうとした人間の美しさに触れ、自らもまた、限りある命を大切にしていこうとする心情や態度を育てることに適したものである。

本時の指導に当たっては、導入で命についてのアンケートの結果を紹介することにより、価値への意識づけを図る。安楽死をすすめる獣医や命を救おうとした甲斐さんの考えを知った上で、自分だったらどう判断するか、自分だったらそこまでして必死に訴えるか、それぞれの立場で自分事として考えさせたい。子犬の命を必死に救いつなごうとした甲斐さんの言動から、「生命はかけがえのない大切なもの」であり、「命の重さはみな同じ」であることを深く感じ取らせたい。また、子犬を引き取りたいと申し出る夫妻にも触れることで、生命を尊重しようとする心情や態度につなげていきたい。

7 本時で工夫すること

《学び合い学習・自己を表現できる子どもの育成》

- ・ペアトークや「個人→グループ→全体」と段階を経ることで、考えを共有し深める。
- ・ふり返りの視点を与えることで話し合いのねらいを明確にし、児童一人一人の考えを深めさせる。

《学習評価の視点》

- ・導入時に「命についてどう思うか」、児童がこれまでの生活体験から自己の考え方や生き方についてふり返り、終末でも同じ発問をすることで、考えの変容や深まりを見とる。
- ・獣医さんの考えについての発問をすることで、生命について多角的に捉えようとしている。

《発問の工夫》

- ・導入 → 事前アンケートを活用し、児童がこれまでの生活体験との関わりを基にして、自分や自分以外の生き物の命について考えさせ、内容項目「生命の尊重」について迫る。
- ・展開 → 教材を基に道徳的価値にふれさせるために、自分の価値観と照らし合わせながら「命を大切にしている」と思うところに線を引かせる。

中心発問：中心発問を通して、生命を救い守り抜こうとする人間の姿の尊さから「生命のかけがえのなさ」について理解を深めさせたい。

ゆさぶりや問い返し：命を大切にしている人物の中で「獣医さん」という意見が児童から出てこない場合、「獣医さんは命を大切にしていないのか」問い、価値を多角的に考えさせる。

8 本時の展開

段階	主な学習活動と児童の反応 ○主な発問・補助発問 ◎中心発問・予想される反応	◇指導上の留意点 ◆評価
導入 5分	<p>1. 「命について」問い、命のイメージや価値を持たせる。</p> <p>○「命」についてどう思いますか。</p> <p>例：「○○な命」と言えば…</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一つしかない。 ・命はみんな平等。 ・一番大切なもの。 ・生きるために必要。 <p>○命の重さはみな同じって本当ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一緒だと思う。 ・違うと思う。 	<p>◇予め本文を黙読し、命について考えさせ、内容を把握させておく。</p> <p>◇事前アンケートの結果をもとにし、自他の生命や生き物の命についてどう思っているか投げかけることで、日頃の自分の行動を想起させる。教材名「命の重さはみな同じ」についてどう思うか触れ、子どもから問いを引き出していく。(内容項目への気づき)</p>
展開 30分	<p>2. 「命の重さはみな同じ」を読み、登場人物の気持ちについてそれぞれ考える。</p> <p>○この物語では、誰の命について考えていますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラブ(犬) <p>○ラブの命を大切にしている／考えているのは誰ですか。また、それはなぜですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・甲斐さんは手術を必死にお願いしたから。 ・スタッフはすぐに代表に連絡したから。 ・夫妻はラブを引き取ってくれたから。 ・獣医さんは何時間もかけて手術したから。 ・獣医さんは命を大切にしていないと思う…。 <p>3. 葛藤する獣医さんの心情について考え、自分が獣医さんだったらどうするか考える。</p>	<p>◇範読を通して、命を大切にしている(気持ち・行動)と思う人を丸で囲ませる。児童から獣医さんが出てこないときは、「獣医さんは命を大切にしていないのですか」と促す。</p> <p>◇登場人物のそれぞれの行動から、生命を大切にしていることを理解する。(人物関係図)</p> <p>◇獣医の思いについて何に悩んでいるのか、なぜ悩んでいるのかを話し合い、全体で共有する。</p>

<p>展開 30 分</p>	<p>○獣医さんは、何について悩んでいるのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手術をするか、安楽死させるか。 <p>○安楽死をさせようと思ったのはなぜだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手術するにはたくさんのお金がかかる。 ・手術をしたあと、誰がラブを育てるの？ ・足を切断されたラブのその後の人生やラブの気持ちを考えたらかわいそう。 <p>○手術をしたらどうなるだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まだ生きられる命がある。 ・命は一つしかないから助けなきゃ。 <p>○自分が獣医の立場だったらどうしますか。 (個人→ペア)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不安だから、安楽死をすすめる。 ・命の重さはみな同じだから手術をする。 ・どうしたらいいか決めきれない…。 	<p>その際、獣医の考えを否定せず、ラブのことについて考えている（命を大切にしている）ことをしっかり押さえる。</p> <p>◇ペアで話し合うことで、生命の大切さについて多角的な考えを取り入れ、視野を広げる。</p> <p>◇「自分が獣医だったらどうするか」理由を含めて考えさせることで、獣医の思い(ラブの命を救いたいという気持ちはあるものの、手術をすることでラブにとってそれが良い判断なのか)に迫らせる。</p> <p>◇安楽死か手術か自分の考えを持たせることにより、生命の重みに対する獣医の思いを深く読み取らせる。</p>
<p>終末 10 分</p>	<p>4.甲斐さんの思いについて考えたことをノートに書き、グループで話し合う。 (個人→グループ→全体共有)</p> <p>◎甲斐さんは、なぜラブを救いたかったのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動物の命も人間の命も同じように大切。 ・人間だけでなく、生き物も命は平等。 ・苦しいだけでなく、生きていれば楽しいこともある。ラブに幸せになってほしい。 ・これからの未来があるから。 <p>5.本時の学習でわかったことをまとめる。</p> <p>○今日の学習を通して、命について自分の考えが深まったことはどんなことですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・命の重さはみな同じだから、命は大切にしなければならぬ。 ・命がある今を一生懸命生きていく。 ・色々な人の支えによって、一つの命があり、つながっているからこそ大切にす。 	<p>◇安楽死をすすめる獣医の思いと救いたいと必死に申し出る甲斐さんの思いを対比する。</p> <p>◇グループで話し合うことで、どの生命もかけがえのない尊いものであること、これからの生き方(限りある命を大切に人生を過ごすこと)について考えを深める。</p> <p>◆生きることの尊さを知ることから、自他の生命を尊重しようとすることの大切さについて考えを深めている。(ノート・発言)</p> <p>◇道徳的価値に対する思いや考えをまとめる。</p> <p>◇登場人物の言動から、自己の生き方について考えを深め、自己を見つめさせるために話し合わせる。甲斐さんの人間性にも触れ、生命を尊重することの大切さについて理解を深める。</p>

終 末 10 分	<p>6.本時の学習の振り返りを行う。</p> <p>○あなたは、甲斐さんの姿を見て、これからの生活で具体的にどのようなことをしていこうと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手術を必死に頼む甲斐さんの姿から、命はとも大切にしなければならないと知った。 ・人間の命も動物の命も大切だとわかり、これからはどんな命でも大切にしようと思った。 	<p>◆生命を大切にするために、これからの自分と命の関わり（自分自身でできること、これからどうすべきか）について今日の学びを付け加えて振り返っている。（ノート・発言）</p> <p>◇振り返りの視点を設ける。</p> <p>◇時間があればグループで振り返りを交流する。</p> <p>◇本時で書くことができない場合、次時に書く。</p>
-------------------	--	--

(3) 評価の視点

○【観察・発言・ノート】(学習状況)

生命を救い守り抜こうとする人間の姿の尊さや生命のかけがえのなさについて理解を深めていたか。

○【観察・発言・ノート】(生命との関わり)

生きることの尊さを知ることから、自他の生命を尊重しようとする大切さについて考えを深めていたか。

(4) 板書計画

◎命について
○な命
・1つしかない
・大切なもの
・だれでも持っている

↓
深まったこと
・動物も人の命も大切
・命がある今を生けん命生きる
・色々な人に支えられて生きている

9/7(月) 命の重さはみな同じ

悩み...
安楽死
・苦しい
・足が切断されてかわいそう
・捨て犬だし...

手術
・まだ生きている
・命がある
・助けるべき

夫妻
生命について深く考えている

自分だったら...
命の重み
大切さ

ふりかえり
あなたは、甲斐さんの姿を見て、これからの生活で具体的にどのようなことをしていこうと思いますか。

★かいさんは、なぜラブを救いたからたのだからう。

命の大切さ これからの生き方
・動物の命も人間の命も同じように大切。
・人間だけでなく、生き物も命は平等。
・苦しいだけでなく、生きていれば楽しいこともある。人生ラブに幸せになってほしい。

令和2年9月9日水曜日